

年齢別に見たがんの罹患

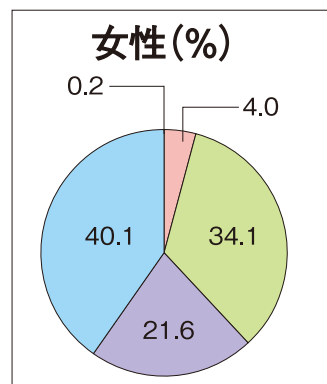
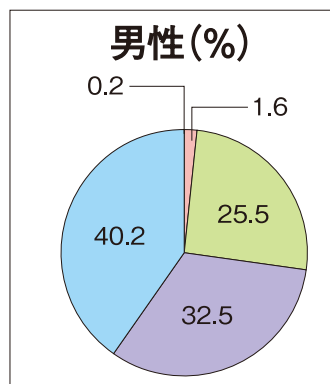
年齢別にみると、男女ともに、2009年に新たに診断されたがんの65歳以上の割合は男では約7割、女では約6割を占めた。一方、働き盛りの40-64歳の年齢層も全体の約3割を占めている（図2）。

女性の40-64歳のがんが多いのは、この年齢層の乳がんが多いためである。また、女性の15-39歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の乳がんと子宮がんが多いためである（図3）。

ほとんどの部位のがんは、男性が女性より罹患率が高い。男女とも年齢が高くなるほど罹患しやすく、特に50歳以上になると年齢階級別罹患率が上昇する。一方子宮においては20歳代、乳房においては30歳代から罹患率が上昇する。（図4）

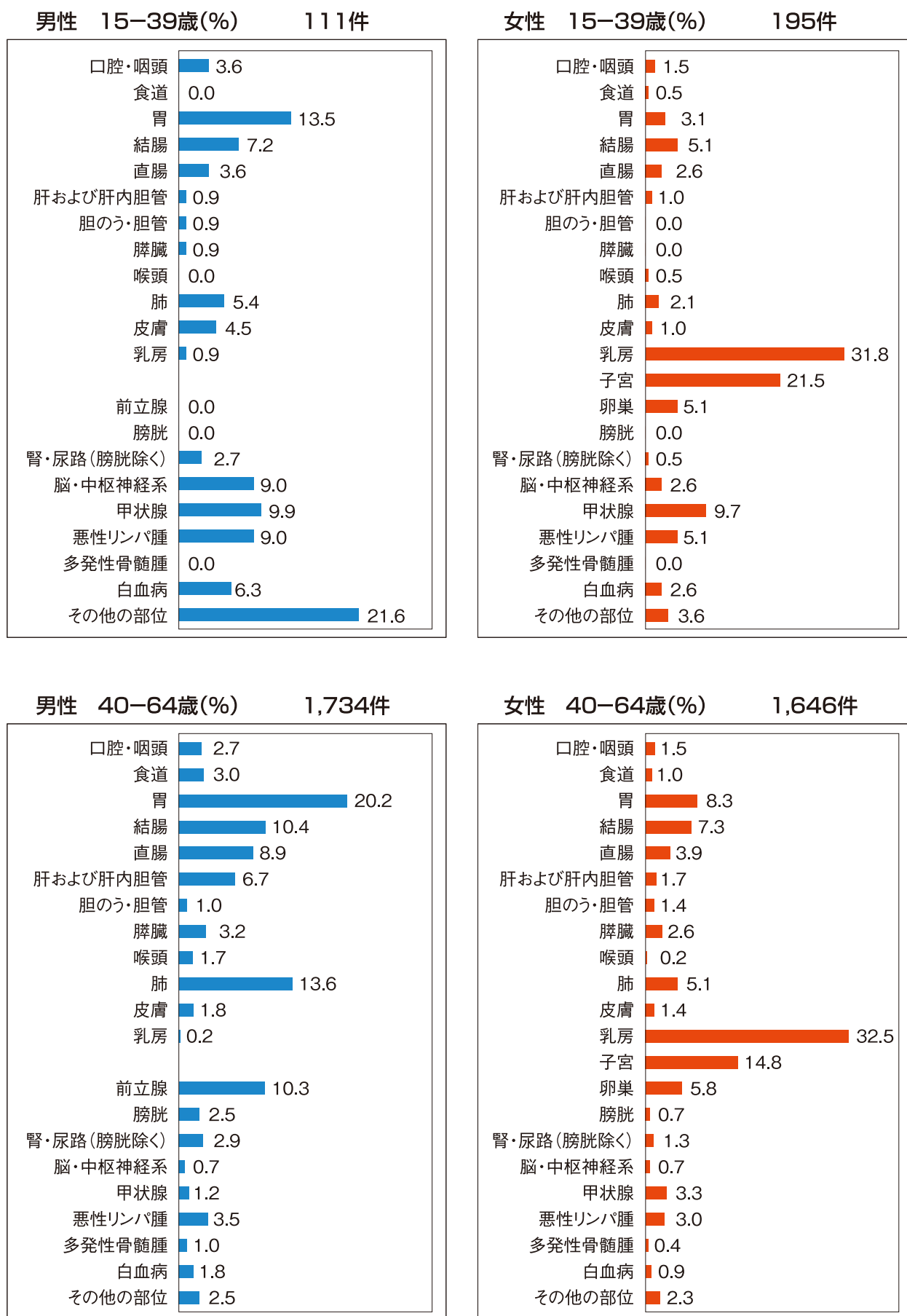
図2 年齢別内訳(%) (表2-Aから作成)

	男性(件)
14歳以下	16
15-39歳	111
40-64歳	1,734
65-74歳	2,213
75歳以上	2,736
合計	6,810

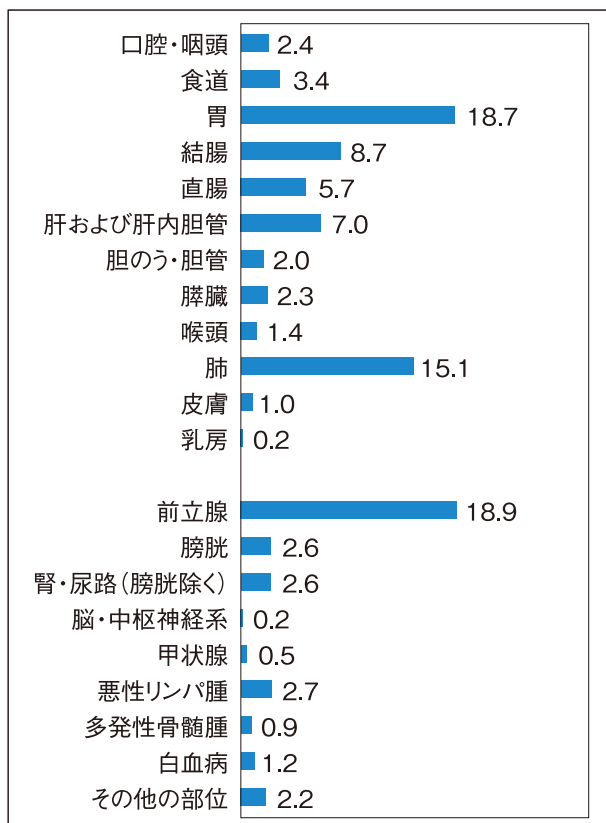


	女性(件)
14歳以下	9
15-39歳	195
40-64歳	1,646
65-74歳	1,042
75歳以上	1,939
合計	4,831

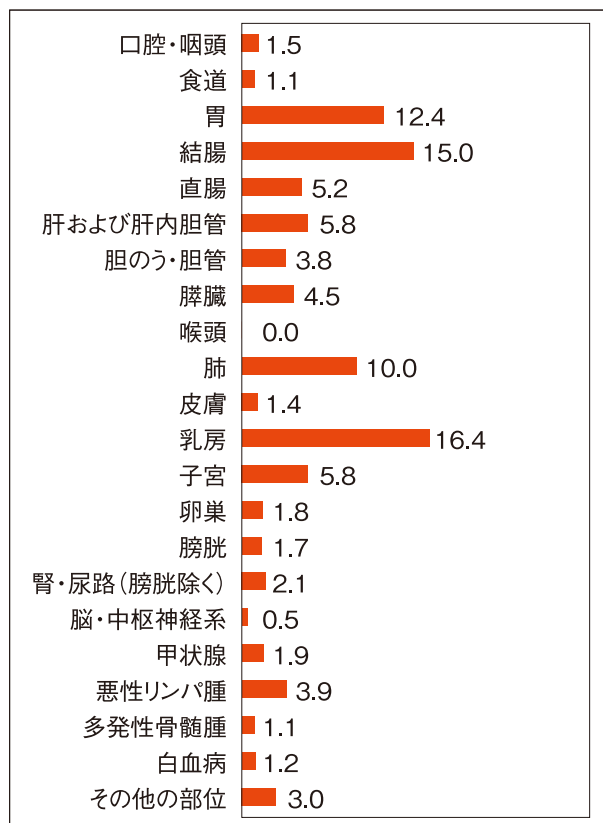
図3 年齢別部位内訳(%) (表2-Aから作成)



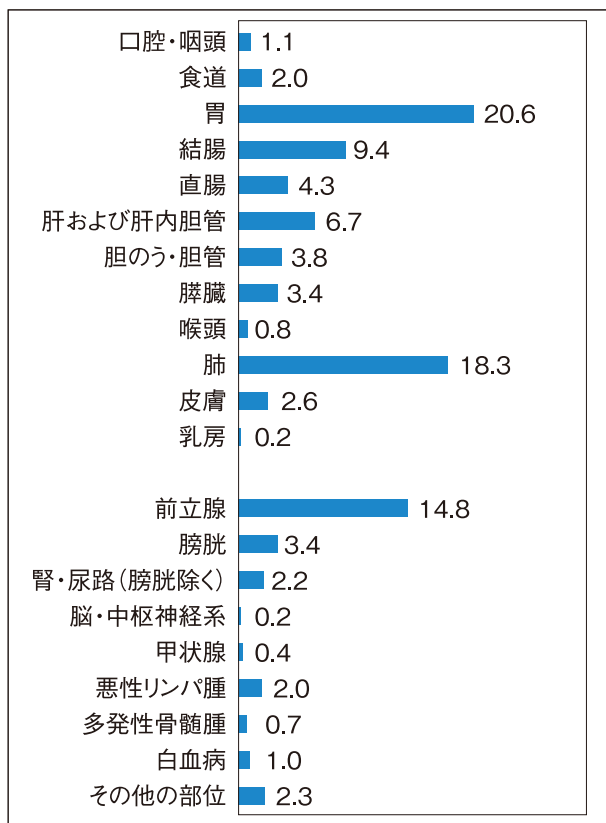
男性 65-74歳(%) 2,213件



女性 65-74歳(%) 1,042件



男性 75+歳(%) 2,736件



女性 75+歳(%) 1,939件

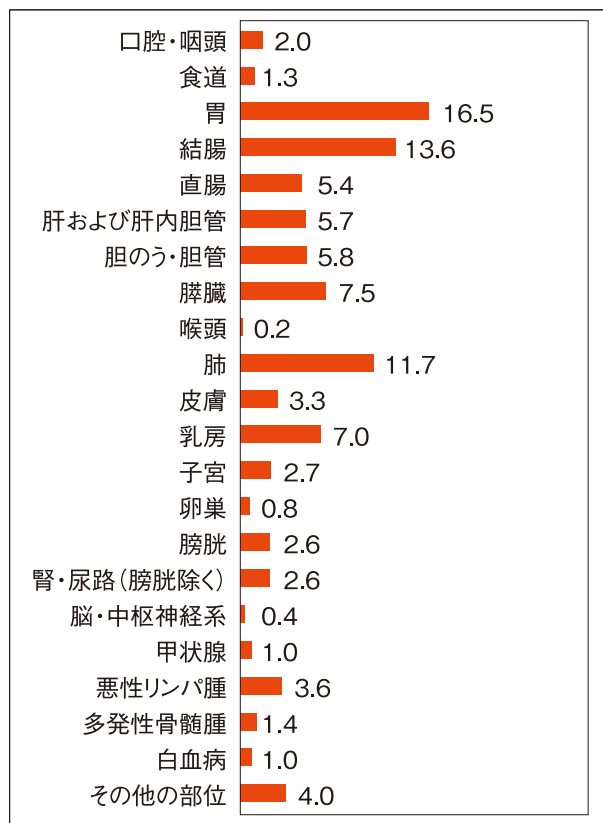
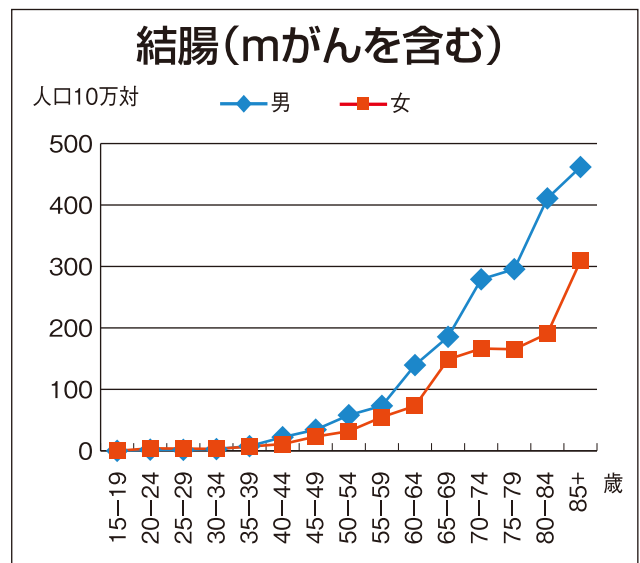
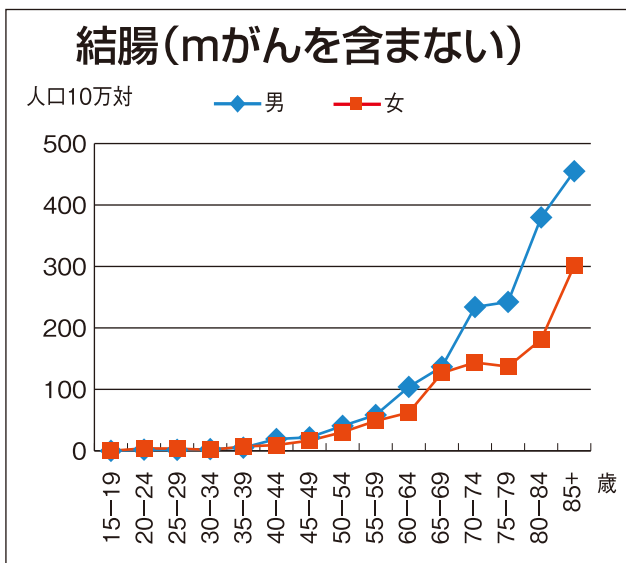
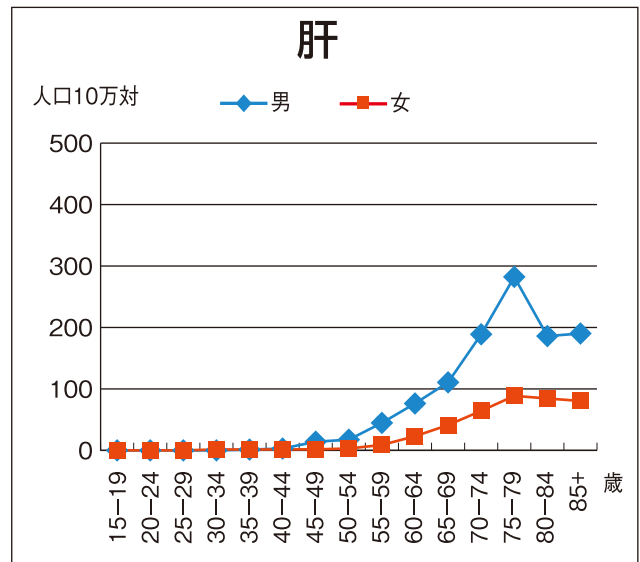
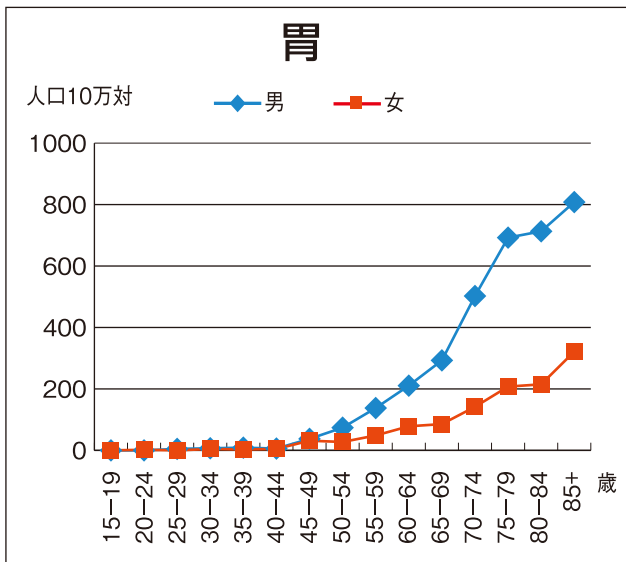
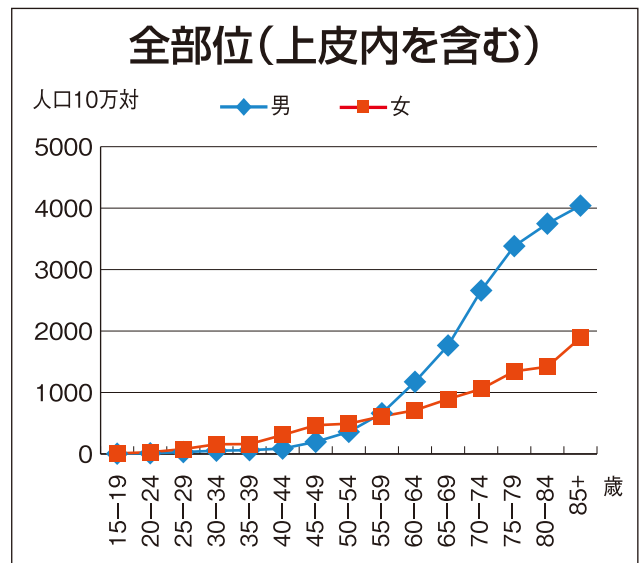
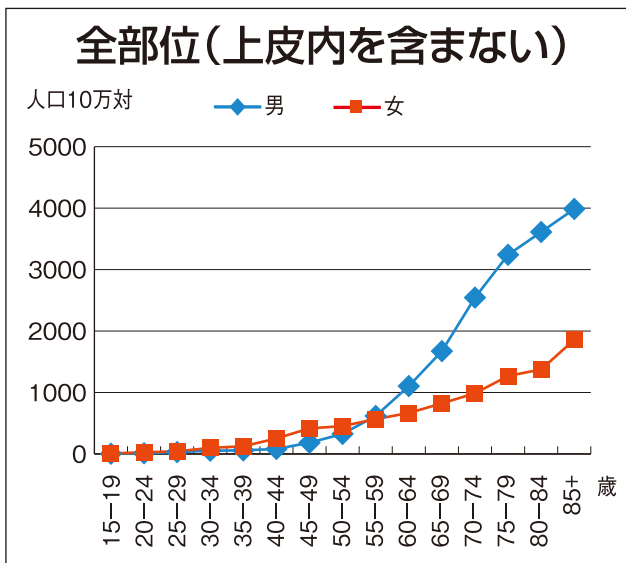
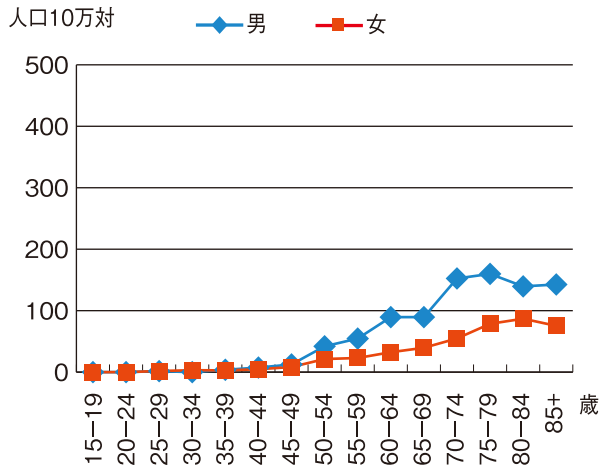


図4 部位別年齢階級別罹患率:人口10万対 (表3-A、Bから作成)

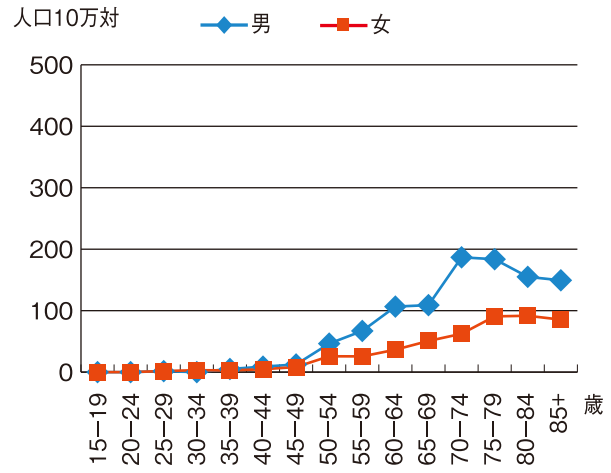


注)mがんについて:我が国の地域がん登録では大腸(結腸および直腸)の粘膜内がん(mがん)は上皮内がんとして扱う

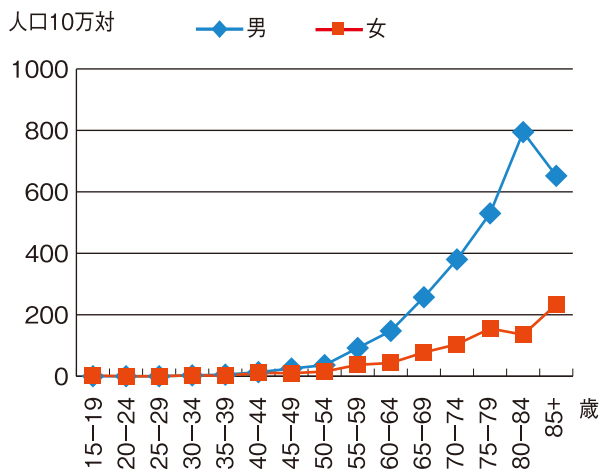
直腸(mがんを含まない)



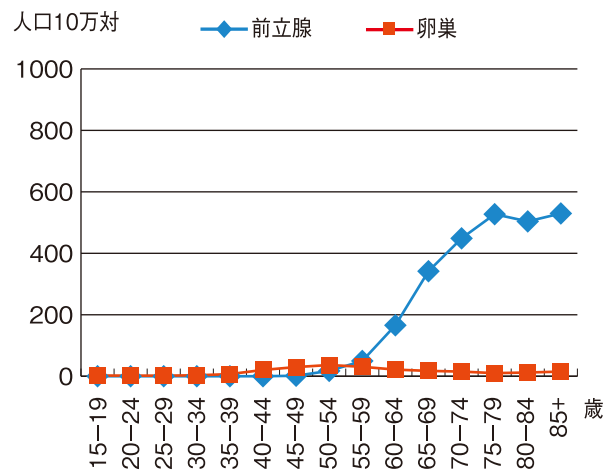
直腸(mがんを含む)



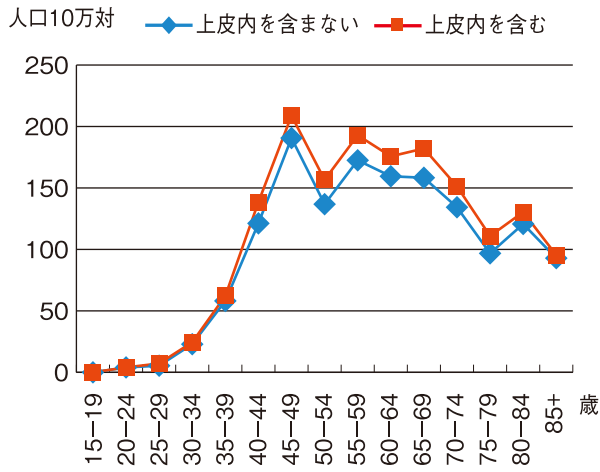
肺



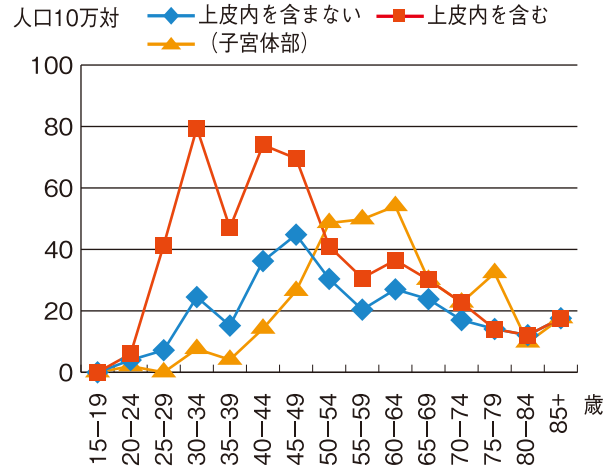
前立腺・卵巣



乳房



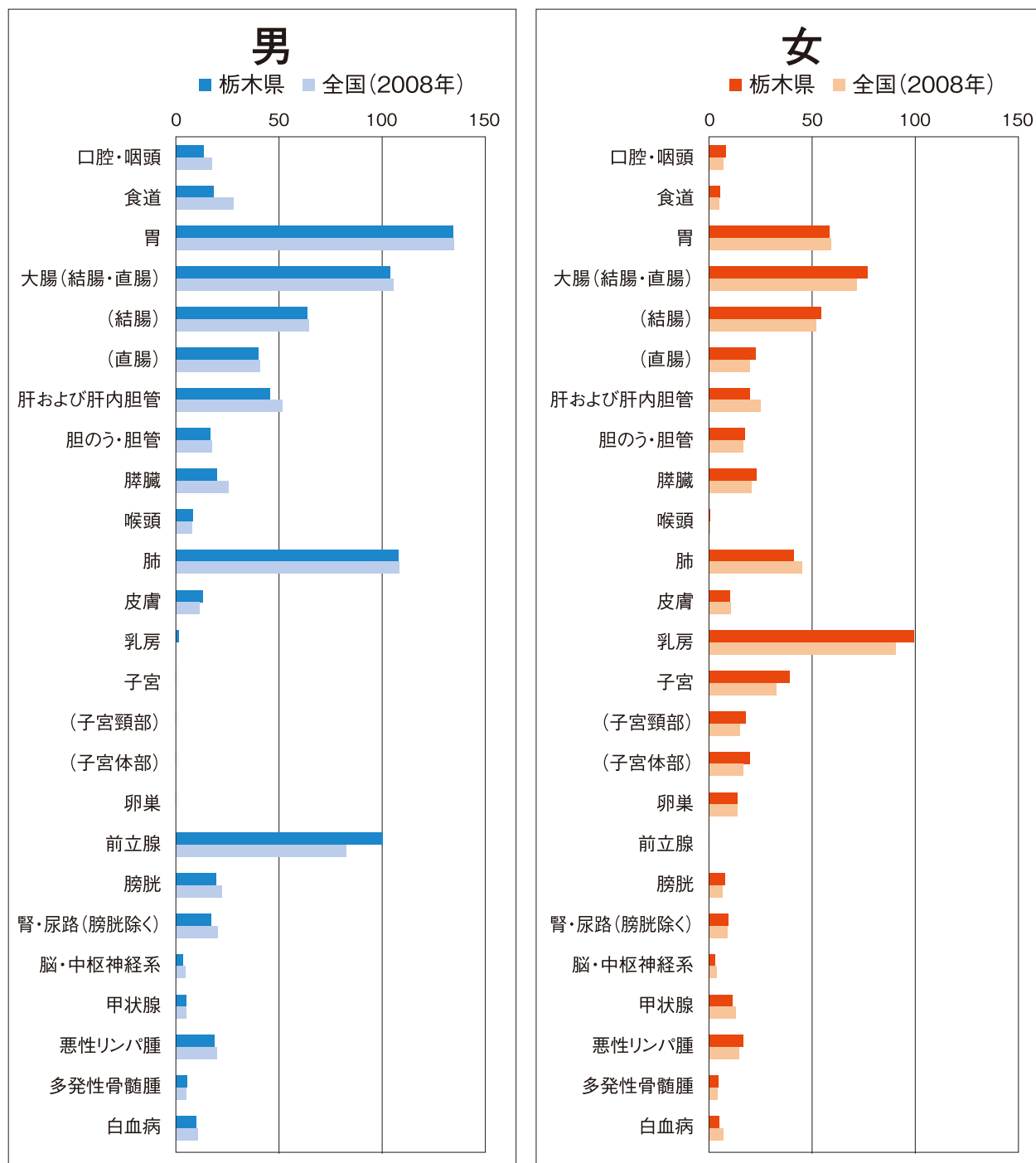
子宮頸部



栃木県のがんの罹患の特徴

日本全体の推計値と比較して罹患率はほぼ同じような傾向があるが、前立腺がんが全国と比較して高かった。(図5)

図5 部位別がん罹患率:人口10万対 (表1-Aから作成)

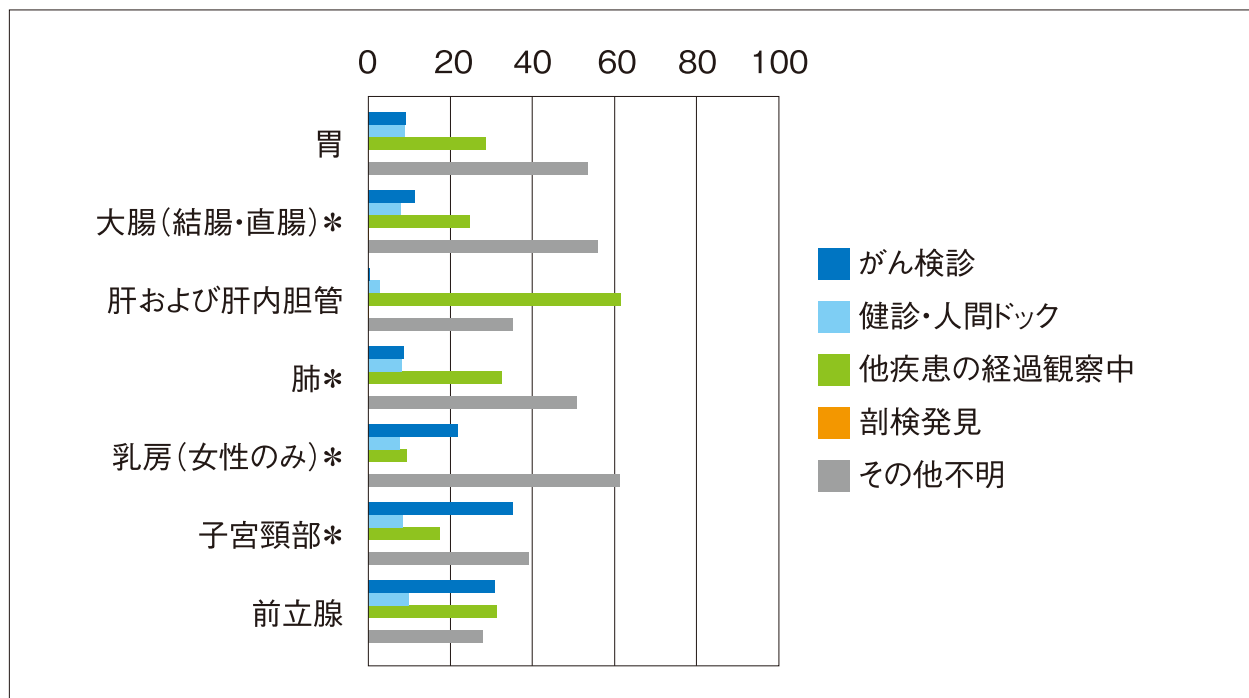


乳房は全国、栃木とも上皮内を含む。国の値は全国がん罹患モニタリング集計2008年より引用。

発見経緯

住民検診の実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診、もしくは健康診断・人間ドックが発見の経緯となった症例はそれぞれ胃18.0%、大腸19.1%、肺16.9%、乳房29.4%、子宮頸部43.6%であった。前立腺においては、40.7%であった。前年に比べてがん検診、健康診断・人間ドックの発見経緯が高くなったが、特に子宮頸部において顕著であった。(図6)

図6 部位別発見経緯(%):対象はDCOを除く届出患者 (表4-A、Bから作成)



*上皮内がんを含む。